

# 平成19年度予算のあらまし

平成19年2月

東京二十三区清掃一部事務組合

## 目 次

1	予算編成の基本方針	1p
2	歳入歳出予算の概要	2p
3	平成19年度予算の特徴	5p
4	主な事務事業の見直し	7p
5	主な事業の概要	
	(1) 世田谷清掃工場	8p
	(2) 施設整備計画における整備スケジュール	9p
	(3) 溶融スラグ有効利用の促進	10p
	(4) 平成19年度 ごみの流れ	11p
6	平成19年度清掃一組分担金について	12p

## 1 予算編成の基本方針

平成19年度予算は、本組合の「経営計画」、行財政改革の取り組みを具体的に示す「経営改革プラン」、23区に具体的な財政効果を示す「財政計画」を踏まえた予算と位置づけ、以下の6つの編成方針に基づき編成しました。

### 《編成方針》

- 1 「一般廃棄物処理基本計画」の着実な達成を図ること。
- 2 平成19年度の予算要求は経費については、ゼロシーリングとする。  
よって、平成18年度予算に対して同額以下の範囲内で要求すること。(施設整備計画にかかる事業費、債務負担行為を除く)  
また、事務事業の実施方法について、アウトソーシングなどによる民間活力の積極的な導入を図ること。
- 3 経費の見積りにあたっては、過去の決算状況を分析し、実績を踏まえ見積もること。  
また、全ての契約行為の予算の見積もりにあたっては、直近の契約実績を反映させ、より実績に近い金額で予算要求すること。
- 4 職員定数については、別に定める「平成19年度組織及び職員定数について」に基づき適正化を図り、より効率的かつ効果的な執行体制を構築すること。
- 5 施設の建設、改築及び改修にあたっては、建設コストの縮減に努めるとともに、事業運営の合理化及び維持管理費の縮減に十分配慮すること。  
また、予算要求にあたっては、関係部課と十分に調整し、工事の重複等がないように留意すること。
- 6 歳入の見積りにあたって、国庫支出金については国の予算編成の動向を注視し、確実に財源を確保すること。また、自主財源については、積極的な見込みにより、最大限の増収に努め、予算要求すること。

## 2 歳入歳出予算の概要

平成 19 年度の一般会計予算の総額は、757 億 2,500 万円となり、前年度の 809 億 5,800 万円に対し、▲52 億 3,300 万円、▲6.5%の減となりました。内訳は、3・4 ページの表及びグラフのとおりです。

平成 19 年度予算では、清掃工場の建設等に要する経費である「施設整備費」が前年度に対し▲100 億 4,800 万円、▲55.2%の減となりました。これは、葛飾清掃工場及び中防灰溶融施設の竣工（H18 年 12 月竣工）、世田谷清掃工場建設工事が最終年度を迎えたこと等によるもので、投資的経費が減となったことが大きな要因となっています。

一方、清掃工場等の維持管理及び運営に要する経費である「清掃費」は、新たに平成 19 年 12 月に世田谷清掃工場が稼働し、葛飾清掃工場及び中防灰溶融施設の平年度化経費など約 40 億円の増加要因がありますが、工場におけるアウトソーシングの推進やスラグの有効利用による経費の削減、既存工場の維持管理コストの縮減など、事業の徹底的な見直しを図ることにより、前年度に対し、27 億 3,800 万円、5.6%の増に抑えています。

また、組合債の償還等に要する経費である「公債費」は、平成 16 年度に発行した組合債の元金償還の開始等により、前年度に対し、16 億 8,500 万円、20.6%の増となっています。

次に、歳入では、本組合の歳入の根幹である特別区分担金が 435 億 7,400 万円で、前年度に対して、38 億 9,830 万円、9.8%の増となっております。

これは、歳入において廃棄物処理手数料改定が延期になったことと、歳出において灰溶融施設の運営経費、公債費などの一般財源による需要が大幅に増加したことが、分担金の増加要因となっています。

このため、財政調整基金から一旦残高の全額である 82 億 9,700 万円を繰入れ、可能な限り特別区分担金の抑制に努めました。

なお、財政調整基金につきましては、歳入の決算額見込み、歳出の不用額などを最大限精査し、平成 19 年度以降の財源対策を図るため平成 18 年度最終補正において、61 億 7,600 万円を積立てております。

また、特定財源においては、施設整備事業費の減に伴い、前年度に対して、国庫支出金が▲15 億 8,900 万円、▲71.9%、組合債が▲75 億 3,800 万円、▲69.5%と、それぞれ大幅な減となっています。

平成 19 年度の特別区分担金の区別算定につきましては、12 ページに記載してありますので、ご参照ください。

# 〈 一般会計予算 〉

	19年度予算	18年度予算	増減率
○ 歳入歳出予算	75,725,000 千円	80,958,000千円	▲ 6.5 %
○ 債務負担行為	1件 756,000 千円	4件 328,000千円	130.5 %
○ 組合債	3件 3,301,000 千円	12件 10,839,000千円	▲ 69.5 %

## 歳入歳出予算

### 歳 入

(単位:千円, %)

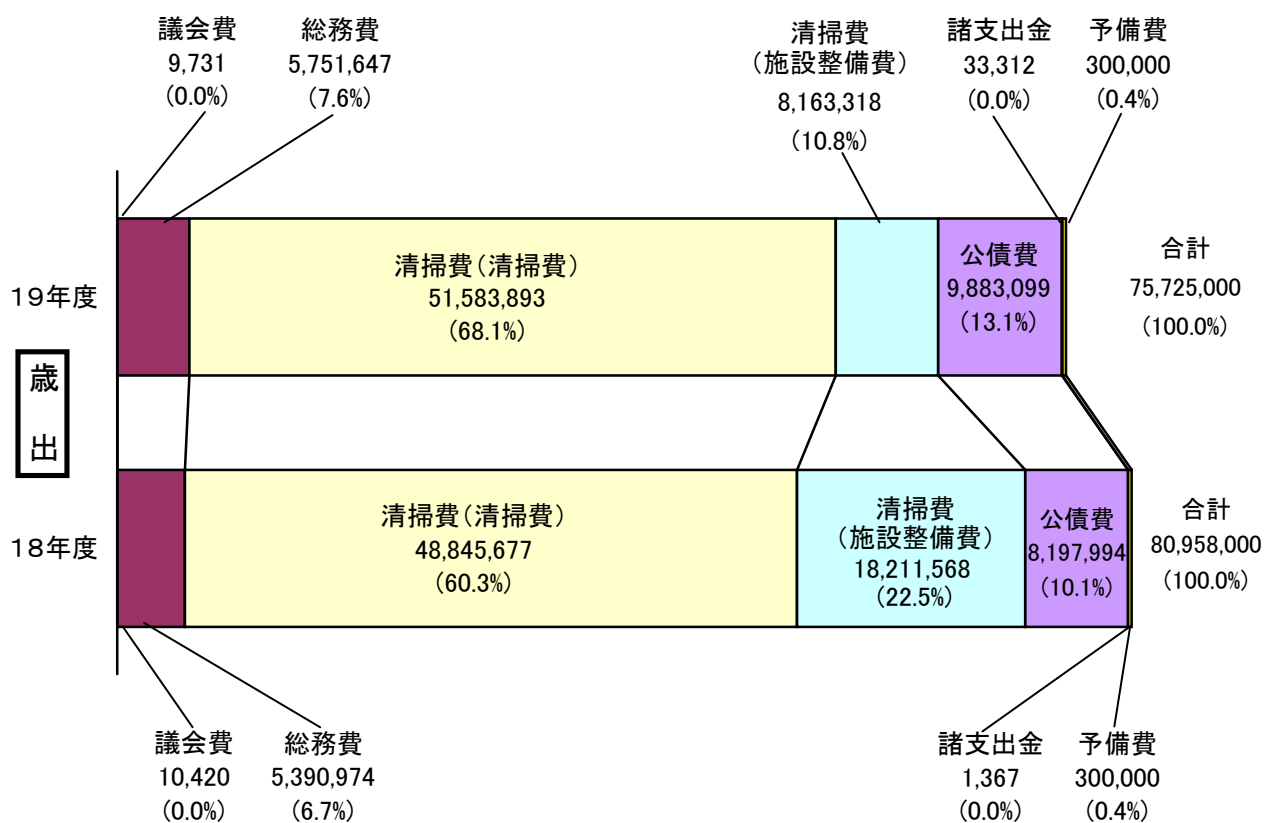
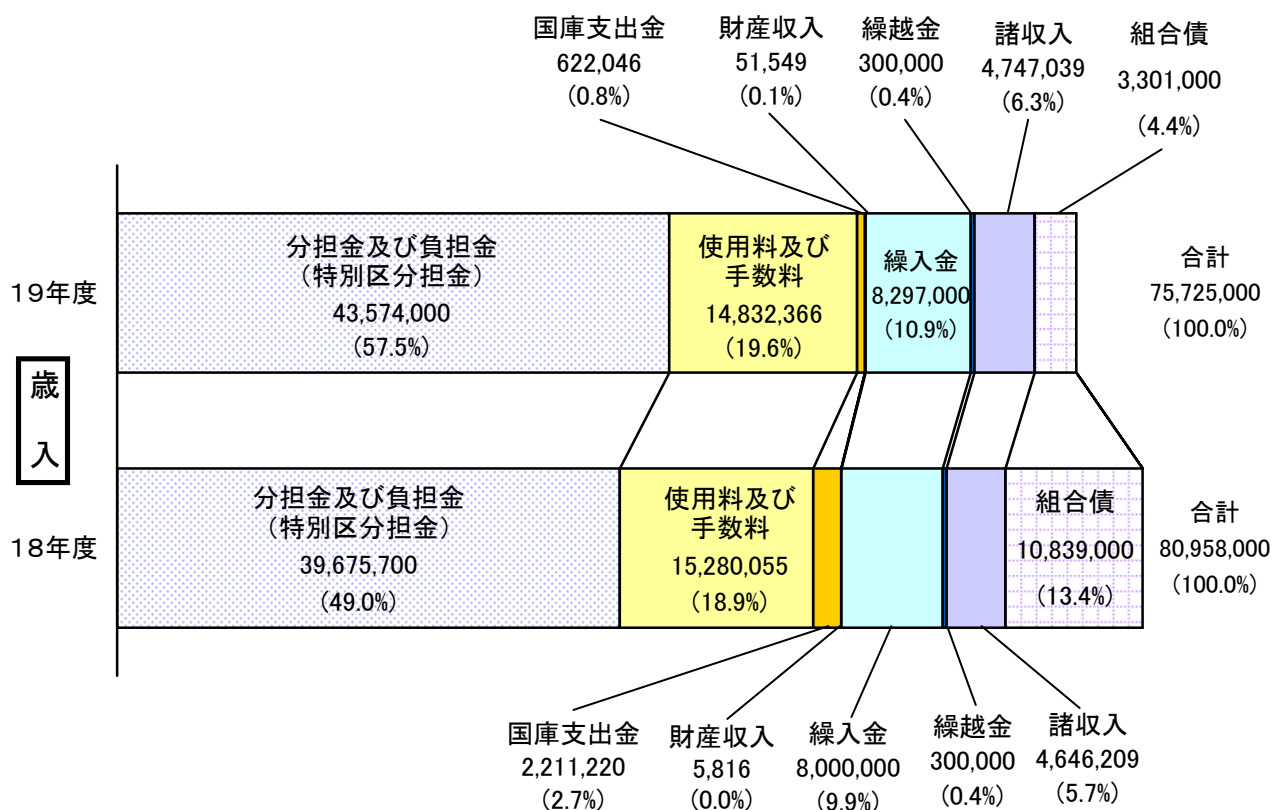
区 分	19年度予算		18年度予算		比較増(▲)減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
1 分担金及び負担金	43,574,000	57.5	39,675,700	49.0	3,898,300	9.8
(うち特別区分担金)	43,574,000	57.5	39,675,700	49.0	3,898,300	9.8
2 使用料及び手数料	14,832,366	19.6	15,280,055	18.9	▲ 447,689	▲ 2.9
(うち廃棄物処理手数料)	14,826,442	19.6	15,275,646	18.9	▲ 449,204	▲ 2.9
3 国庫支出金	622,046	0.8	2,211,220	2.7	▲ 1,589,174	▲ 71.9
4 財産収入	51,549	0.1	5,816	0.0	45,733	786.3
5 繰入金	8,297,000	10.9	8,000,000	9.9	297,000	3.7
6 繰越金	300,000	0.4	300,000	0.4	0	0.0
7 諸収入	4,747,039	6.3	4,646,209	5.7	100,830	2.2
8 組合債	3,301,000	4.4	10,839,000	13.4	▲ 7,538,000	▲ 69.5
歳入合計	75,725,000	100.0	80,958,000	100.0	▲ 5,233,000	▲ 6.5

### 歳 出

(単位:千円, %)

区 分	19年度予算		18年度予算		比較増(▲)減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
1 議会費	9,731	0.0	10,420	0.0	▲ 689	▲ 6.6
2 総務費	5,751,647	7.6	5,390,974	6.7	360,673	6.7
3 清掃費	59,747,211	78.9	67,057,245	82.8	▲ 7,310,034	▲ 10.9
(清掃費)	51,583,893	68.1	48,845,677	60.3	2,738,216	5.6
(施設整備費)	8,163,318	10.8	18,211,568	22.5	▲ 10,048,250	▲ 55.2
4 公債費	9,883,099	13.1	8,197,994	10.1	1,685,105	20.6
(うち組合債元利償還金)	9,882,893	13.1	8,195,487	10.1	1,687,406	20.6
5 諸支出金	33,312	0.0	1,367	0.0	31,945	2,336.9
6 予備費	300,000	0.4	300,000	0.4	0	0.0
歳出合計	75,725,000	100.0	80,958,000	100.0	▲ 5,233,000	▲ 6.5

(単位:千円)



### 3 平成19年度予算の特徴

平成19年度予算の特徴は、以下の表のとおりです。今後の事業展開のために必要とされる経費については、重点的に予算を配分しました。なお、施設整備費については、次ページの「平成19年度 施設整備一覧」のとおりです。

(単位：千円)

項 目	金 額	説 明
1 廃プラスチックのサーマルリサイクル実施に向けた環境調査委託	364,052	平成20年度からの廃プラスチックのサーマルリサイクルの本格実施にあたり、廃プラスチックの焼却処理が、排ガス、排水、焼却灰、焼却施設及び周辺大気に及ぼす影響等について調査を行う。
2 葛飾清掃工場及び中防灰溶融施設の平年度化、世田谷清掃工場の稼働	6,789,918	平成18年12月に稼働した葛飾清掃工場及び中防灰溶融施設の平年度化経費、また、平成19年12月から稼働する世田谷清掃工場の運営経費を計上する。 (対前年度 4,005,479 増)
3 清掃工場運転管理委託	—	アウトソーシング推進の一環として、平成19年度から大田・杉並清掃工場の運転管理の一部を委託する。2工場で約1億1,400万円の財政効果を見込む。
4 大田清掃工場第一工場操業継続事業	515,946	第一工場の操業継続に必要な灰処理設備及び受変電設備の整備を行う。 なお整備工事は、平成20年度までの2カ年で実施する。
5 世田谷清掃工場の建設	3,970,262	平成19年12月の竣工に向け、引き続き本体工事等の経費を計上する。
6 杉並・光が丘清掃工場煙突改修工事	1,140,000	煙突内部のライニングに微量の非飛散性アスベストの含有が確認されたので、安全確保のためライニング内側にステンレス製の内筒を挿入し封じ込めを行う。
7 周辺環境アスベスト含有量分析委託	16,724	環境省及び東京都通知に基づき、全清掃工場及び中防処理施設において、新たに清掃工場周辺境界（敷地境界）のアスベスト測定を年2回実施する。
8 千歳工場プラットホーム防音壁設置工事	24,832	入口門からのごみ投入音の漏れを防止するため、入口門に防音壁を設置し、防音対策を図る。
9 電子調達の導入準備	7,190	平成21年度からの電子調達の実施に向け、電子化による行政サービスの提供を行う東京電子自治体共同運営協議会に参加するとともに、総合行政ネットワーク（LGWAN）に接続する。

## 平成 1 9 年 度 施 設 整 備 一 覧

(単位：千円)

区 分	事 業 費	整 備 内 容
清掃工場の建設	4,734,419	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世田谷清掃工場(本体工事等)※H19年12月竣工</li> <li>○北清掃工場(特高ケーブル移設工事等)</li> <li>○渋谷清掃工場(用地取得事業)</li> <li>○練馬清掃工場(周辺環境調査委託)</li> </ul>
清掃工場のプラント更新	556,565	<ul style="list-style-type: none"> <li>○葛飾清掃工場(周辺環境調査委託)</li> <li>○大田清掃工場第二工場 (大田清掃工場第一工場操業継続工事等)</li> </ul>
灰溶融施設の建設	14,599	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中防灰溶融施設(周辺環境調査委託)</li> </ul>
清掃工場の施設整備	2,474,062	<p>既設清掃工場について、施設機能の維持・向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○飛灰搬出設備整備(千歳清掃工場)</li> <li>○その他設備整備 (杉並・光が丘清掃工場煙突改修工事 ほか9件)</li> </ul>
不燃ごみ処理施設の整備	356,464	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中防不燃ごみ処理センター (第二プラント臭気対策整備工事)</li> <li>○京浜島不燃ごみ処理センター (粉じん対策整備工事)</li> </ul>
粗大ごみ処理施設の整備	9,948	<ul style="list-style-type: none"> <li>○破砕ごみ処理施設(外構整備工事)</li> </ul>



## 4 主な事務事業の見直し

経営計画・経営改革プランを踏まえた、平成19年度における事務事業の見直しによる経費節減等の財政効果は下表のとおりです。

(単位:百万円)

※1		財政効果	説 明
歳出の削減		1,667	
アウトソーシングの推進	※2	114	新たに杉並・大田清掃工場において、運転管理業務の一部を民間委託する。
行財政の見直し		1,553	
スラグの有効利用の促進		382	溶融スラグを有効利用することにより、運搬経費や埋立処分経費の削減を図る。
維持管理コストの縮減		1,171	
オーバーホール（維持補修工事含む）等の見直し		1,065	廃プラサーマルへの移行に伴う中間処理体制の見直しにより、大田第二清掃工場・中防不燃第一プラントの維持補修工事等については、必要最低限度のもののみ行う。
所内消費電力の節減		106	本来であれば購入する電力を、工場の発電した電力で賄い節減を図る。
歳入の確保		200	
売電収入の確保		14	工場における余剰電力・熱エネルギー等の売却を行い、収入の確保を図る。
有価物売払収入の確保		186	鉄・アルミニウム等の資源回収の徹底を図り、売払い収入の確保を図る。
合 計		1,867	

※1. 財政効果については、対前年度予算比較です。

※2. アウトソーシングの財政効果については、平成19年度予算ベースです。

## 5 主な事業の概要

### (1) 世田谷清掃工場

- 所在地 世田谷区大蔵一丁目1番1号
- 工事期間 平成16年7月から平成19年12月
- 稼動予定 平成19年12月
- 処理能力 焼却炉 300t/日 (150t/日・炉×2基)  
灰溶融炉 120t/日 (60t/日・炉×2基)
- 搬入ごみ量 350t/日 (週6日搬入)
- 建築面積 約9,900㎡
- 工場棟 鉄骨鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造)、地上7階・地下2階
- 煙突 高さ 約100m
- 発電設備 定格出力 6,750kw

世田谷清掃工場完成予想図



## (2) 施設整備計画における整備スケジュール

施設名 (焼却炉規模、 灰溶融炉規模)	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
世田谷 清掃工場 (300t/日、 120t/日)	※										
練馬 清掃工場 (600t/日、 —/日)											
大田清掃工場 第二工場 (600t/日、 140t/日)											

※世田谷清掃工場の工事期間は建設期間を表記しています。

施設整備計画に基づき、上表のとおり整備を進めていきます。なお、平成19年度予算では、各施設について次の経費を計上しました。

### ○世田谷清掃工場の建設

平成19年12月の竣工に向けて、引き続き本体工事等を行います。

### ○練馬清掃工場の建設

平成22年度の着工に向けて、引き続き周辺環境調査を行います。

### ○大田清掃工場第二工場のプラント更新

平成22年度の着工に向けて、引き続き周辺環境調査を行うほか、大田清掃工場第一工場の操業継続に必要な整備工事を行います。

## ※設備概要

### ○焼却炉

ごみは、最新の自動燃焼制御装置により焼却されます。燃焼ガス温度は、850℃以上で滞留時間を2秒以上とり、ダイオキシン類の発生抑制を図ります。

### ○排ガス処理設備

#### ・ろ過式集じん器

排ガスを減温塔で急速に冷却させてダイオキシン類の再合成を防止したうえ、ダイオキシン類を含んだばいじんを効率よく捕集します。

#### ・洗煙塔

排ガス中のいおう酸化物・塩化水素・水銀を、苛性ソーダ溶液等により除去します。

#### ・触媒反応塔

排ガス中の窒素酸化物・ダイオキシン類を触媒の働きで分解します。

### ○灰溶融炉

焼却後の灰を1,200℃以上の高温で加熱溶融します。ダイオキシン類は、高温で加熱処理することにより分解されます。灰は、砂状の固化物(スラグ)になり、容積が約2分の1になります。

### (3) 溶融スラグ有効利用の促進

焼却後発生した焼却灰や飛灰を1, 200℃以上の高温で溶融し、冷却すると、ガラス状の溶融スラグ(スラグ)になります。溶融処理することで重金属類を封じ込め、ダイオキシン類も分解されるため、無害化することができ、容積も灰の約2分の1になります。また、スラグは、砂の代替品として建設資材等への利用が可能であり、埋立処分量の削減を図ることができます。

当組合では、平成13年6月(平成15年4月改正)に定めた「焼却灰溶融スラグの利用促進等に関する方針」に沿ってスラグ利用の促進を図っています。この方針は、一般廃棄物処理基本計画の改定及び平成18年7月に公示された道路用及びコンクリート用骨材としてのJISなどに対応するため、現在、改定作業を進めています。

#### ○スラグ利用促進

スラグの全量有効利用に向けて、当組合の発注する工事等において積極的に利用するほか、23区をはじめ国、東京都、民間事業者等への利用の働きかけを行っています。

このほか、平成19年度は、コンクリート製品用骨材としての適性調査や、再々生アスファルト混合物の評価調査など、用途開発への取組も積極的に行っていきます。

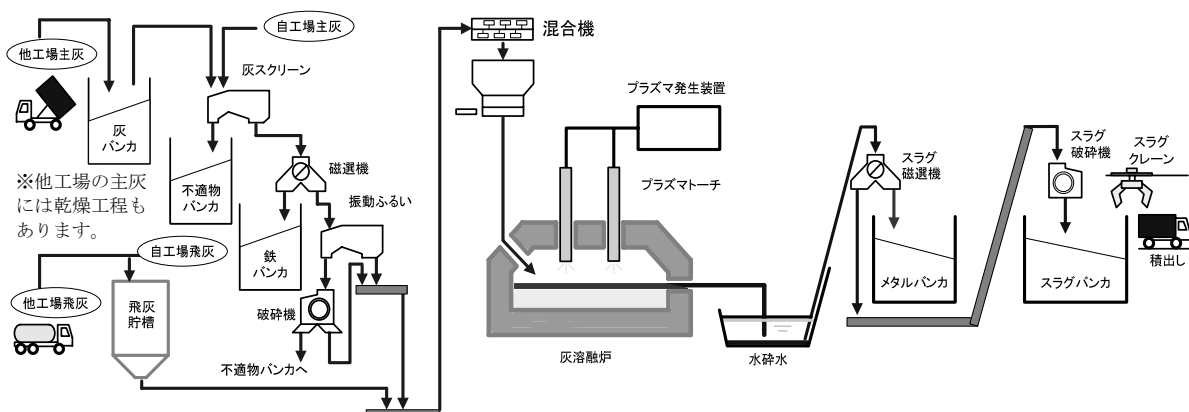
#### ○スラグの供給

スラグが建設資材等に利用されるためには、安全なものが、安定して供給される必要があることから、次のような取組を行っています。

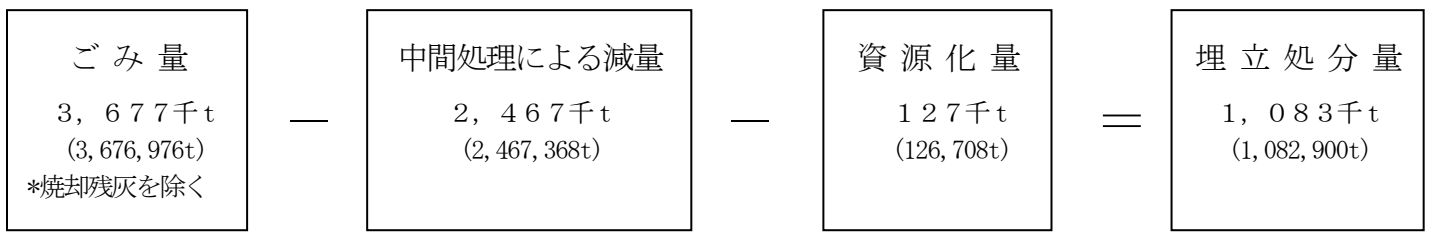
- ・ J I Sに基づく安全性の確認
- ・ 灰溶融施設に隣接した、貯留施設の整備

### 灰溶融設備 概略図

足立清掃工場を例にして、積み出しまでの流れを図にしています。有効利用するスラグは、スラグ貯留施設から各利用先に運ばれます。



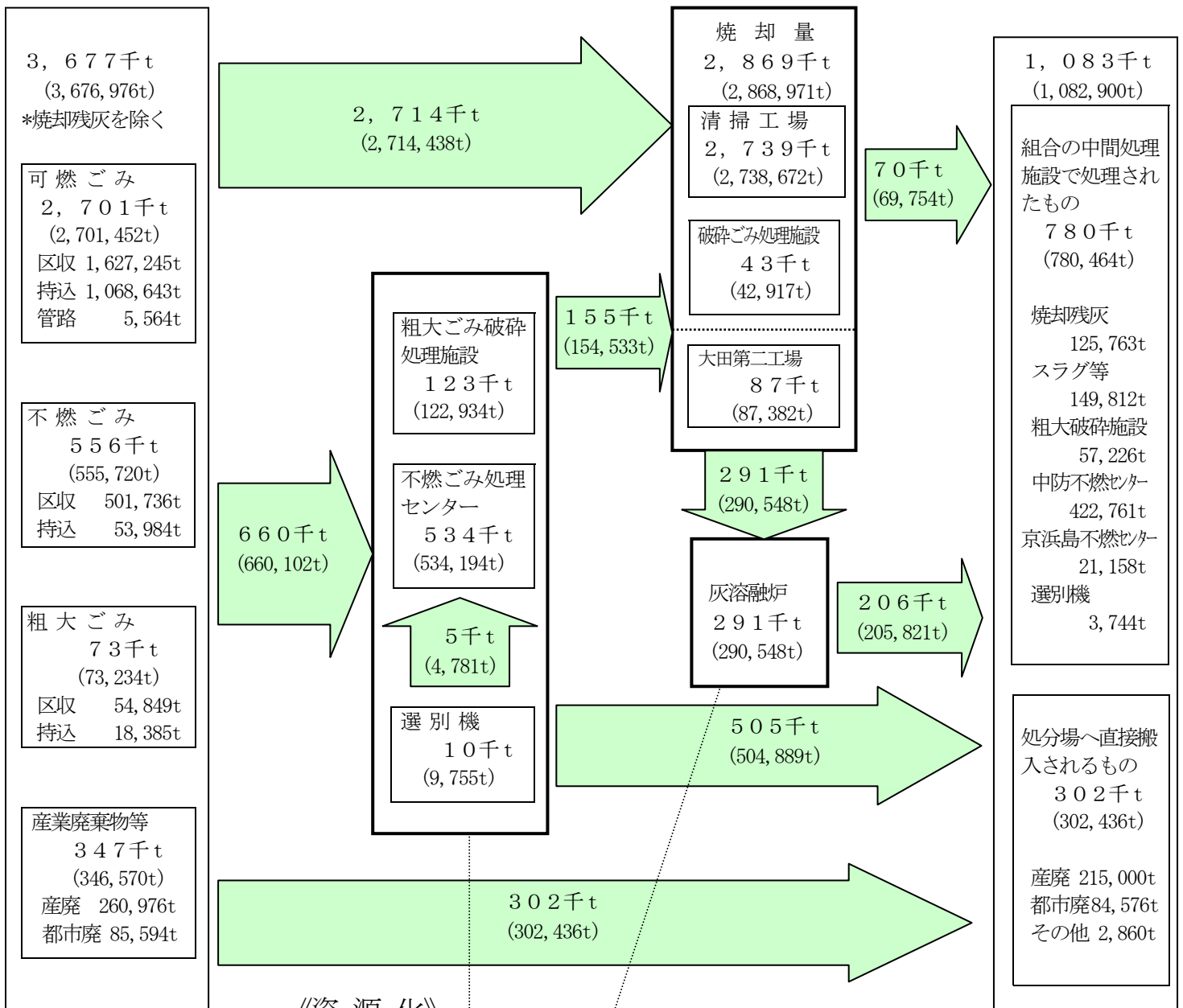
# (4) 平成19年度 ごみの流れ (予算編成時の集計年量による)



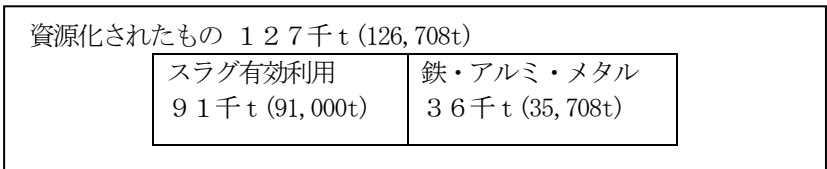
《搬入》

《中間処理》

《最終処分》



《資源化》



(注) 上記のごみ量は、組合予算編成時の集計量であり、各区の告示ごみ量とは一致しない。

## 6 平成19年度清掃一組区別分担金について

【23区ごみ量実績】(A)	3,384,832 t	【区収ごみ相当分担金 (G) = (D) × (B)】	
17年度 区収ごみ量23区計	2,241,404 t		38,203,532千円
区収ごみ割合(B)	66.219%	【持込ごみ相当分担金基礎額 (H) = (D) × (C)】	
17年度 持込ごみ量23区計	1,143,428 t		19,489,172千円
持込ごみ割合(C)	33.781%	【持込ごみ相当分担金 (I) = (H) - (F)】	
【分担金算出基礎額】(D)	57,692,704千円		5,370,468千円
19年度 分担金23区計(E)	43,574,000千円		
19年度 手数料収入計(F)	14,118,704千円		

単位:千円

区分 区名	区収相当分			持込相当分			平成19年度 区別分担金 g = (c+f)
	区収ごみ 量 (トン) a	割合 b	区収相当分 c = (G × b)	人口(人) (H18年4月1日現在) d	割合 e	持込相当分 f = (I × e)	
千代田	24,018	1.072%	409,542	46,548	0.543%	29,162	438,704
中央	42,898	1.914%	731,216	103,627	1.208%	64,875	796,091
港	66,190	2.953%	1,128,150	201,059	2.345%	125,937	1,254,087
新宿	96,442	4.303%	1,643,898	305,996	3.568%	191,618	1,835,516
文京	49,605	2.213%	845,444	187,934	2.191%	117,667	963,111
台東	59,475	2.653%	1,013,540	170,898	1.993%	107,033	1,120,573
墨田	68,236	3.044%	1,162,916	235,360	2.745%	147,419	1,310,335
江東	109,135	4.869%	1,860,130	434,730	5.069%	272,229	2,132,359
品川	85,228	3.802%	1,452,498	346,343	4.039%	216,913	1,669,411
目黒	64,866	2.894%	1,105,610	257,278	3.000%	161,114	1,266,724
大田	162,166	7.235%	2,764,026	678,499	7.912%	424,911	3,188,937
世田谷	205,582	9.172%	3,504,028	829,151	9.669%	519,271	4,023,299
渋谷	68,329	3.049%	1,164,826	207,313	2.417%	129,804	1,294,630
中野	78,912	3.521%	1,345,146	308,765	3.601%	193,391	1,538,537
杉並	128,273	5.723%	2,186,388	528,417	6.162%	330,928	2,517,316
豊島	74,500	3.324%	1,269,885	253,843	2.960%	158,966	1,428,851
北	82,651	3.687%	1,408,564	330,002	3.848%	206,656	1,615,220
荒川	52,373	2.337%	892,817	191,491	2.233%	119,923	1,012,740
板橋	127,494	5.688%	2,173,017	524,232	6.113%	328,297	2,501,314
練馬	165,704	7.393%	2,824,387	687,726	8.020%	430,712	3,255,099
足立	160,201	7.147%	2,730,406	645,504	7.527%	404,235	3,134,641
葛飾	110,276	4.920%	1,879,614	439,942	5.130%	275,505	2,155,119
江戸川	158,850	7.087%	2,707,484	660,914	7.707%	413,902	3,121,386
合計	2,241,404	100.000	38,203,532	8,575,572	100.000%	5,370,468	43,574,000